



日系人就労準備研修2年目がスタート! 神奈川県は当協会が実施

受講者の日本語レベルに配慮、土日、夜間コースも

厚生労働省は、日系人求職者を対象に、日系人就労準備研修事業を平成22年度も昨年に引き続き実施するが、全国のトップを切って、本年度最初のコースが、4月22日に神奈川県大和市の大和生涯学習センターで開講した。同市をはじめ藤沢市、厚木市、平塚市、横浜市など神奈川県内の20コースは、日本国際協力センター(JICE)からの委託を受け、当協会が運営・実施する。



開講式であいさつする山田厚生省外国人雇用対策課長(大和生涯学習センター)

初日には開講式が行われ、厚生労働省職業安定局山田雅彦外国人雇用対策課長、神奈川県労働局職業安定部松瀬貴裕部長も出席した。山田課長は、景気はやや回復傾向にあるが、雇用の回復まではまだ時間がかかる。と見通しを述べた上で、「就職するためには高いレベルの日本語を習得することが絶対必要。日本語が身につけば、就職の選択の幅も広がる。(帰国せずに)日本に残った人はある意味で選ばれた人たちだ。希望を持って頑張りたい」と激励した。

同研修は、日本語コミュニケーション能力の向上、日本の労働法令、雇用慣行、労働・社会保健制度等に関する知識の習得の他、履歴書の作成指導や、面接シミュレーションまでも含む。

コース当たりの総研修時間は、受講者の日本語能力や都合にあわせ、120時間から300時間の間に複数コースを設定し夜間や土日曜のコースも設ける。

また、コース修了者等が、公共職業訓練等のより高度な訓練に移行するに当たり、総合的な日本語能力の向上をめざす「スキルアップ研修」や、介護などの専門分野を学ぶために必要な専門用語等の学習を行う「フォローアップ研修」も順次実施する。

21年度、就労準備研修は集住地域を中心に14県60地域で344コースが実施され、6,298人(うち神奈川県39コース786人)が受講した。同省が並行して実施していた日系人に対する帰国支援事業も3月で終了し、現在在留している日系人は、日本で生活していくことを自身で選択した人達であるといえる。

同研修は本年度、20県以上で年間5,000人を超える規模で実施される予定で、より意識の高い人達を対象に研修の効果が期待される。

あゆんできた道。
きずいてゆく道。



ひとの毎日を、
もっともっと素敵にする
お手伝いをしたい。
いま、わたしたちは、
建設という仕事をとおして
どんなお役にたてるのか、
じっくりと考えています。
これまでの道を、
静かに振りかえりながら、
燃える思いを、
胸につよく抱きながら。



国内日系人の現状も視察

4月5日から6月2日までの59日間、JICA横浜において、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、ドミニカ共和国、パラグアイの5カ国へ赴任する、平成22年度派遣日系社会青年ボランティア、シニア・ボランティアの派遣前訓練が実施された。

同訓練は、ポルトガル語、スペイン語の語学学習のほか、日系社会の現状や任国事情についての講義を通じて、ボランティア活動に必要な知識と技術の習得を目的に実施するもので、青年ボランティアは平成11年度より、シニア・ボランティアは9年度より当協会がJICAからの委託を受けて実施しており、20年度から合同訓練となった。

訓練を受けたのは、青年ボランティア40名とシニア・ボランティア13名で、派遣職種は日本語教育関係が半数以上を占める。

「青年」は、日系日本語学校教師25名、小学校教諭6名、青少年活動3名、ソーシャルワーカー2名、野球1名、編集1名、司書・学芸員1名。「シニア」は、日本語教育9名、養護1名、介護福祉1名、高齢者介護1名、保健福祉1名。6月下旬より7月初旬にかけて現地に向け出発する。

5月13日、14日、ボランティアたちは、群馬県大泉町と太田市を訪れ、日系人の集住する地域の現況や子弟の教育現場を見学し、在日日系人の抱える問題を含め、日系人・日系社会をより大きな視野で理解するためのフィールドワークを行った。

大泉町のブラジル人学校、日伯学園では、ボランティア達を中心となって折り紙や紙芝居、ゲームなどの教室活動を通じて、生徒達との交流を行った。



ブラジル人学校の子どもたちと交流する青年ボランティア
(日伯学園、群馬県大泉町)

年度日系研修員が来日

JICAの実施する日系研修員受入事業で、4月より22年度受入研修員が続々と来日している。

日系研修員事業は、民間団体等が提案し実施する国民参加型事業と位置付けられており、本年度に当協会が受入実施を予定しているのは医学や科学技術分野等の個別コースと、継承日本語教育教師、農協中堅実務者、農村婦人、幼児教育の集団コースで、9月までの上半期に受け入れるのは28名となっている。

4、5月は、長期(3~10カ月)、短期(3カ月未満)の個別研修員11名が来日した。

5月に来日し8月まで東京大学大学院工学系研究科で研

修するブラジル、サンパウロのマツモト・マウリシオさん(25)は、サンパウロ大学で自転車共同利用システムを研究中。大学自体が一つの町を形成する広大なキャンパスで運用するべく開発を進めている。

「先進的な日本のシステムを学び、帰国後学内のシステムを完成させたい。公共交通システムのモデルとしてさらに大都市に広めていきたい」と夢を語っていた。



賛助会員のご案内

当協会では、当協会の事業目的および活動趣旨についてご賛同いただける賛助会員を募集いたしております。会費・特典等は下記をご参照下さい。

なお、「ニッケイネットワーク/海外日系人協会だより」は、従来、海外移住家族会会員の皆様にもお送りいたしておりましたが、本号より、賛助会員のみの送付となります。また、日本国内の賛助会員には、海外日系人大会初日に開催する、皇室をお招きしての歓迎交流会にもご参加いただけます。

この機会に、ぜひとも当協会賛助会員へ加入をご検討下さいませようお願い申し上げます。

海外日系人協会賛助会員

◆年会費

・国内	企業団体：1口以上	1口	30,000円/年
	公益団体：1口以上	1口	10,000円/年
	個人：1口以上	1口	10,000円/年
・海外	団体：1口以上	1口	100ドル/年
	個人：1口以上	1口	100ドル/年

◆特典

- ① 海外日系人大会レセプションのご招待(国内)
- ② 季刊「海外日系人」誌の送付(年2回発行)
- ③ 「NIKKEI NETWORK/海外日系人協会だより」の送付(年4回)
- ④ 当協会企画の南米視察・訪問団等のご案内
- ⑤ 当協会が発行する刊行物の割引

◆送金先

- ・国内 ①郵便振替 口座番号：00100—5—703428
加入者名：財団法人 海外日系人協会
- ②銀行振込(銀行名) (支店名) (普通預金口座番号)
- 三菱東京UFJ銀行 横浜 4472220
- 三井住友銀行 みなとみらい 0110749
- みずほ銀行 横浜 2530298
- (口座名義) ザイ) カイガイニッケイジンキョウカイ

- ・海外 国際郵便為替 又は 銀行小切手
(宛先名) THE ASSOCIATION OF NIKKEI & JAPANESE ABROAD

在日
ニッケイ人は
今...

在日日系人の子供達に夢を!

日本財団日系留学生会(NFSA)の活動

JICA横浜海外移住資料館で日系の子供絵画作品展

JICA横浜海外移住資料館で、5月25日から6月27日まで、「在日日系人のこども絵画コンテスト『私のせかい 自分のメリー』作品展」が開かれている。

日本財団日系留学生会(NFSA)のメンバーが昨年6月から9月にかけて、全国約50カ所のブラジル人・ペルー人学校に応募を呼びかけたところ、29校から917点の作品が寄せられた。そのうち約900点が日系の子供達からのもので、850点がブラジル、40点がペルー、残りの10点がフィリピン、コロンビア、ボリビアの子供達であったという。

ブラジル人・ペルー人学校で出前授業

NFSAは、日本財団の日系人を対象とした日本留学のための奨学金制度「日本財団日系スカラーシップ・夢の実現プロジェクト」で来日している留学生がメンバー。「少しでも、社会に恩返ししたい」という思いから2004年より活動している。

メンバーは常に連絡を取り合い、定期的に集まり識者を呼んで研修会を行っているほか、ブラジル人・ペルー人学校への訪問活動を行っている。生徒達の母国語と日本語に対する学習意欲、自国と日本文化に対する関心を高めると同時に、健康の大切さを知ってもらうことを目的とした「出前授業」は、岐阜県美濃加茂市や群馬県大泉町、静岡県浜松市、三重県鈴鹿市、茨城県常総市、長野県諏訪市など、これまで全国8地域で、のべ20回にも及んだ。

メンバーの中には、生徒と同じように幼少時に来日し日本の公教育を受けた経験を持つ者も少なくない。中学で来日して日系人の置かれた現実を直視し日本の大学への進学を決意した者、生後数カ月で来日し15才まで日本で生活し、帰国後現地の高校を卒業後、奨学金制度を利用して日本の大学を受験し合格した等々だ。自らの専門学習分野を紹介し、学習を続けられどどのような道が開けるのかを実体験に基づき語り、学習を継続するモチベーションを失わず持ち続けることの意義を説いている。

陰になっている子供たち

こうした活動を続けるうちに、メンバーたちは在日日系人の子供達の内面の問題に目を向けるようになった。昨年来、日系人が職を失い、苦境に立たされている姿がマスコミなどでわかに取り上げられるようになった。派遣など不安定な雇用形態で就労し日本語も覚えなくても生活が成り立つ環境で過ごしてきた結果、製造業から他業種への転職が困難である状況や、親が失業し学費が払えなくなったり、帰国したりで生徒数が激減し経営が立ち行かなくなるブラジル人学校の様子等も報道された。

「子どもは陰になっている」。NFSAのOBで、海外日系人協会で日本財団の留生活活動支援業務を担当し、現在、世界中の日系の若者のネットワーク作りを目指す団体「ニッケイ・ユース・ネットワーク」事務局長の打村明さん(チリ、第1期生)は感じた。「自国へ帰るのか帰らないのか、子どもは自分で選べません」。マスコミでは大人の目線しか報道されないことが歯がゆかった。

両国の間で、自身のアイデンティティの問題にゆれながら、せっかく居場所となっていた学校からも、友達がどんどんいなくなっていく。さびしさと「いつか自分も」の思いが、子ども達の気持ちをふさぎ、口を閉ざした。

ダブルルーツを誇りに

「子供達が、不安を抱えながらどのような夢を抱いているのか、彼らの若い心がこの複雑な『ダブル・ルーツ』をどのように受けとめているのか掬い取ろう。自分の幸せなとき(メリー)を描くことで、表現する楽しさを知ってもらい希望を取り戻してもらおう。そして親に子供の力、可能性に気づいてもらおう」と企画されたのがこの絵画コンテストだった。

集まった作品には、子どもたちの「メリー」がことばでも寄せられている。その中に「ブラジルと日本が対等であること、ブラジル人として日本で生きられること、2つの国籍を持っていること」というものがあった。「海外にしようが、日本にしようが、喜びに輝く社会、相互理解に基づいた多文化共生社会を夢見ている」というNFSAの留学生達が寄せたことばに見事に重なった。



岐阜県美濃加茂市のSEBS学園で行ったエッセイコンテストで

平成22年度日本財団日系スカラーシップ 募集中!

「日本財団日系スカラーシップ・夢の実現プロジェクト」は、居住国と日本との間の理解促進や居住国・地域社会の発展に貢献するために具体的な計画や夢を持つ若い日系人に対し、その実現のために日本留学の機会を与えるための奨学金プログラムです。

当協会では日本財団より助成を受け、奨学生の募集・選考・受入準備・奨学金の支給等の業務を行っています。

平成22年度の募集締め切りは7月31日。

応募・問い合わせは、

財団法人海外日系人協会「日系スカラーシップ係」

TEL:045-663-3258 FAX:045-211-1781まで。

詳しくは当協会ホームページをご覧ください。

http://www.jadesas.or.jp/kenshu/scholarship/index_j.html

CIATE「国外就労者情報

援護センター」の1年

6月を迎え、皆様におかれましてはいかがお過ごしですか。

当地サンパウロでは、朝晩が涼しくめっきり秋らしさを増し、各地で秋の行事が催されています。

例えば、モジ・ダス・クルーゼス市の秋祭り、オザスコの運動会、ピエダージの柿祭りなどがすでに開催されました。

尚今月は、ブラジル日本人移民102周年の月にあたり、サントス上陸記念日6月18日(1908年、最初の日本人移民781名を乗せた笠戸丸がサントス港入港した日、ブラジル日系社会では「移民の日」とされている。)当日には、例年先駆者慰霊ミサ、開拓先亡者追悼大法要の、先駆移民の功績を称え、追悼をささげる催しが予定されており、その前後にも各種の関連行事も催されます。

平成21年度活動及び業務実績の報告

CIATEの業務は、日系人就業環境改善事業に関して、厚生労働省から委託された財団法人海外日系人協会より、サンパウロに在るCIATEに再委託され、業務遂行が行われています。

平成21年度業務は(2009年4月1日～2010年3月31日)無事に遂行され、22年度4月13日CIATE総会が開催され、議案が承認され、22年度の業務がスタートしました。

求人、求職に関して

2008年10月以降の世界経済の混迷の中、残念ながらCIATE経由の訪日者は皆無の状況でした。但し新規の求人数が0の状況の中、求職相談者は30名程来所されました。

相談に関して

相談人数1,710人、相談件数2,482件に及び、この数字は20年度比較で122%と増加傾向にあります。

相談内容は多岐にわたりますが、大きく分け「社会保険関係」1,620件(特に脱退一時金関係が623件で全体の25%で最多)日本の文化、習慣、労働法制などの「日本の事情」569件、2回間の「税金」

179件などが大部分を占めています。

来所者1,436名、インターネット及び電話での相談者が274名(昨年対比190%)と年々インターネットでの相談者が増加傾向にあり、CIATEでも対応としてホームページの充実を図り、相談だけではなく、情報発信の意味でも厚生労働省、海外日系人協会と連携を密に取り組みでいくつもりであります。

男女別内訳は、男性1,046名、女性664名で以前に比較して男性の比率が増加しております。国籍別で見ますとブラジル国籍1,553名、日本国籍73名、2重国籍67名となっており、日本国籍の多くの方は戦後移住された高齢者が多数で、年金関係の相談が多く占めていました。

相談者の居住地は、サンパウロ市内および大サンパウロ圏の人達が1,338名と圧倒的多数を占めておりますが、中には遠くサンタカタリーナ州フロリアノポリス市(サンパウロ市より700キロ)より相談に来られた方もいました。また日本よりの相談メールなども頂き、海外日系人協会内「日系人相談センター(SAITRAN)」と連携を取り、対処しております。

事前研修 日本語教室実施

毎週2回(火、木)訪日希望者に対し「日本の事情を知る」をテーマに研修を実施し、年間372名(対前年比170%)が受講しました。これにはCIATE職員及び外部より専門家を講師とし、日本の習慣、社会保険、税金等を個別に取り上げ、2時間程度をめぐりに実施しました。

また今回の不況に伴い、再認識されている、日本での就労、生活に欠かせない日本語学習について2009年度期初よりCIATEとして重点をおき、2時間授業では最大13コース/月を設け、早朝のコースで朝8時より、夜間のコースでは22時終了など受講し易い様に授業時間割を組み、558名(延べ5,200名以上)の受講者

が有りました。本年度も引き続き重点を置き実施を予定しております。潜在的な日本就労希望者はまだまだ居り、各々が今回の逆境の中で、再訪日するには個人としスキルアップして行かなければと自覚し、又それが良い方向に進むよう、CIATEとして助力して行く積りです。

合同研修会 巡回CIATE コラボラドーレス・セミナー

合同研修会は、2か月に1度を目途に、土曜日に開催実施しており、3月13日CIATEワークショップを含め、年6回433名(対前年比140%)の参加を頂きました。毎回2名の外部専門家を招き、夫々の分野での講演を依頼し、小職が「日本の経済、雇用状況」「日本語修得の必要性」など開催毎テーマを決め、実施しました。

巡回CIATEは、昨年度5月ヘジストロ市での1回(参加者31名)の開催になりましたが、本年度は県連の協力のもと、各県人会でのミニ巡回CIATEの開催を企画しております。

コラボラドーレス・セミナーは昨年10月24、25日「世界的危機に直面したデカセギ者」シンポジウムを開催しました。詳細については「NIKKEY NETWORK NO.3」で報告しましたので省きますが、日伯両国政府、日系諸団体の各代表、並びに日伯の其々の分野の専門家を迎えて報告と講演を行い、両日で211名の参加を頂きました。

なお、NO.4でご案内させて頂きました、CIATEワークショップは途中3時間の停電などハプニングが有りましたが、「日本語」「職業の適性」「起業、企画」のキーワードの下、3か所に分かれた其々のブースには興味を持った方々90名の参加者の下、無事終了出来ました事を報告致します。



3月に行ったCIATEワークショップに集まった人達

平成21年度の 相談センター業務の総括

相談センター所長 西山 巖

(財)海外日系人協会 **日系人相談センター**

■相談受付 月曜日～金曜日(土・日曜、祝祭日を除く)

9:30～12:30 13:30～17:30

■対応言語 ポルトガル語、スペイン語、日本語

■電話番号 045-663-3258

平成21年4月から本年3月までの1年間に当センターが受けた相談は、相談者の人数3,730人、相談の件数では6,370件(前年比10%減)でした。相談件数が相談者数を上回る(約1.8倍)のは、同一人が同じ問題で繰り返し相談してくる場合や、別の新たな相談ごとで電話してくるからです。相談者の居住地は、北海道から沖縄県までの39都道府県にまたがり、海外からもブラジル、ペルー、アルゼンチンなどの16カ国から電話やEメールで相談がありました。相談者の出身国は、ブラジルが全体の38%、次いでペルーの35%、日本国籍者(日系人の家族、雇用主、日系人外国人の関係者など)が22%、他となっています。相談者の男女別・国籍別の人数、そして内容別の相談件数はそれぞれ(表1)と(表2)のとおりです。

表1 相談者数

区分	項目	人数	比率(%)
性別	男	1,822	54.53
	女	1,908	45.47
	合計	3,730	100.00
国籍別	ブラジル	1,416	37.96
	ペルー	1,286	34.56
	日本	833	22.33
	ボリビア	56	1.50
	アルゼンチン	49	1.31
	メキシコ	20	0.54
	コロンビア	14	0.38
	パラグアイ	9	0.24
	その他	44	1.18
	合計	3,730	100.00

表2 内容別相談件数

項目	件数	比率(%)
生活相談・一般情報	2,156	33.85
日本語学習	1,588	24.93
保険・年金・税金	684	10.74
労働問題	508	7.97
日本研修・奨学金	410	6.44
翻訳・通訳	275	4.32
求人・求職	193	3.03
査証・在留資格	178	2.79
帰国手続	143	2.24
医療	117	1.84
教育・就学	68	1.07
運転免許・交通事故	50	0.78
合計	6,370	100.00

前期における相談傾向 多くの日系人が職を失い帰国しました。一方で将来の希望を夢見て本邦に残った人々は失業保険に頼って生活をしていましたが、その期限も切れはじめ、失業保険期限切れ後の生活に関する相談が多く寄せられました。特に、失業により、夫婦、親子間に亀裂が生じ、家庭内に各種問題がおき、家庭内暴力等もかなりの数で増えてきており、これら問題に関する相談も増加しました。

生活苦による相談に加え、社会保障関係、生活保護の申請、失業保険の申請等生活の根幹に係わる相談が以前に比べかなりの比率で増加してきています。

日本全国で一昨年(2009年)の10月から、昨年(2010年)の12月までの15ヶ月間に約25万人の非正規労働者が職を失ったといわれており、日系人

の多くもこの中に含まれていることから、上記のとおり、求職や生活支援の相談が増えてきた原因ともなっています。

後期における傾向 昨年4月に始まった厚生労働省の「日系人離職者に対する帰国支援事業」が本年3月で終了したことから、上記残留組の中で、今後の日本経済の景気回復を諦めた人たちのこの制度への駆け込み申請が増加(第二の帰国ラッシュ)しました。

これにより、相談内容も解雇前の職場での問題、解雇から帰国への各種手続き及び帰国後の子女教育問題等が増加してきています。

帰国ラッシュにより、昨年より今年にかけて、約7万人の日系人が帰国したとの情報を入手していますが、これが正しければ、在日日系人の実に20%が日本を離れたこととなります。しかし在日日系人が減少しているにも拘らず、相談件数は減っていません。その理由は、厳しい経済情勢・雇用情勢による生活苦の相談が大幅に増加していることによるものと思われます。

今年度に入り、「子ども手当」の申請受付がはじまり、これについての相談が増えているところ、これに関する相談事例1件を掲載します。

子ども手当

相談 10年前に来日し、派遣会社を通じ自動車部品工場で働いてきました。昨年12月、会社の都合で解雇され、現在夫婦でアルバイトをし、次の雇用に繋がるよう日本語の勉強に励んでいるところです。我々夫婦には5人の子供がおり、上の3人はブラジルに残し、姉夫婦に面倒を見てもらっています。勿論養育費等の必要経費は毎月送金しています。

今般日本政府が打ち出した「子ども手当」につき質問します。日本にいる子供については文句なしに受け取れるようですが、ブラジルに残した3人の子供(8歳、10歳、12歳)についても、新聞情報等によれば申請可能ということですね。正確な情報を知りたいと思います。また、可能な場合の条件等はどのようになっているのでしょうか。

対応 現在のところ、政府は海外在住の子どもについても申請可能としており、申請を受け付けています。但し、海外で子どもが生活している場合の支給要件を次のように定めています。

1. 少なくとも、年2回以上子どもと面会していること。
2. 生活費などの送金がおおむね4か月に一度継続的に行われていること。
3. 来日前に親と子どもが同居していたことを居住証明書等で確認できること。

最近問い合わせが多いのが、子どもの現在の居住証明です。この書類は各自治体で取り扱いが異なっているようですので、詳しくは、自治体の窓口(子育て支援部)に相談してください。

しかし、最近、養子縁組の子ども、イスラム諸国における第2、第3、第4夫人の子ども等の申請で種々問題が生じており、政府は、外国在住の子どもについては厳しい規制又は撤廃等を検討しているようですので、場合によっては、法改正により、外国在住の子どもについては支給しないということになる可能性もあります。

JALサンパウロ便9月で運休

日本航空(JAL)は4月28日、成田-サンパウロ便を含む国際線15、国内線30の計45路線を運休することを発表した。同便は9月30日をもって運休し、サンパウロ支店も撤退する。成田9月26日発、サンパウロ27日発の便がそれぞれ最終便となる。

JALは、今年1月19日に会社更生法を申請し、週3便だった成田-サンパウロ便は2月から週2便で運行している。JALの日伯間の定期便は移民70周年の1978年に開設され、以来32年間、日伯間をつなぐ文字通り架け橋となってきたが、9月27日以降、日本から直行便でブラジルに行くことはできなくなる。

一方、大韓航空はソウル-サンパウロ便を週3便、中国国際航空も北京-サンパウロ便を週2便運行している。二宮正人サンパウロ大学教授は「ブラジルでサムスン、LGなどの家電やヒュンダイ自動車など、韓国ブランドの躍進はすさまじく、ますます日本の影が薄くなっていくのは淋しい限りだ」と語った。



ブラジル線就航第一機へのテープカットで挨拶する朝田静夫社長(1978年当時)

福岡県が移住の歴史と在外県人会をPR

(財)福岡県国際交流センターは、「世界で活躍する福岡県人～海外福岡県人会と移住の歴史」と題した広報リーフレットを作成し、県下各市町村や国際交流団体等に配布した。

日系社会 Topics

海外福岡県人会は、9カ国21カ所があり、「グローバル化が進展し、本県が国際社会の中で今後とも海外との交流を積極的に行う際に、県人会は移住国との交流の懸け橋として、貴重な財産」としている。

リーフレットには、同県にルーツをもち活躍する人として、ダニエル・イノウエ氏(米上院議員)ジョージ・アリヨシ氏(元ハワイ州知事)ら5人のプロフィールを掲載。県人会後継者育成支援事業や海外移住家族会についても紹介している。



日本生活ガイドを発行・配布

日系人を初め在日外国人向けに、TV、新聞、書籍等各種メディアサービス事業を展開する(株)IPCワールドが、日本で生活する外国人向けのガイドブック2010年度版を発行した。



ポルトガル語、スペイン語、英語で作成され、外国人が集住する地域のレストランや南米食品店等で無料配布される。

ハローワークや医療機関等の電話番号のほか、外国人登録等の各種手続きや、

教育制度の説明、労働法や社会保健等、就労に関する解説がなされている。

ポ語版では、給与明細の読み方や、職業上の資格についても掲載した。

《賛助会員便り》

ドイツ トルン紀美子さん



昨年初めて、第50回大会に参加させていただき、世界中に広がる日系人の方々のこれまでのご経験を伺うことが

でき大変感銘を受けました。私の住むドイツをはじめヨーロッパの各国には、まだまだ移住第一世代目の日本人が多い事もあり、アイデンティティーも日本のほうが強い人も多く、「日系人」という言葉がまだしっくりこない感じがしていますが、お仲間に入れていただければと思いました。

私はドイツに住んで20年になりますが、アジア各国からの移民も多い中で、近年は特に「日本から来た」というと、とたんに好印象を持ってもらえることで、ヨーロッパでの日本という国のイメージのよさを実感していましたが、昨年、この大会に出席し半世紀以上も前に南北アメリカ大陸などに移住して苦勞をされてきた先人の方々のご努力を聞き、この礎があったからこそ賜物だと尊敬の念を抱き感謝せずにはいられません。

最近のヨーロッパでは、日本の若者の文化が大変もてはやされ、こちらの若い人達の間にも「日本語を習って日本に行きたい」という人がどんどん増えていて、憧れに近いものさえ感じられます。

海外での日本語教育の普及は、日系人だけでなく、当地の人達にも、日本をもっとよく理解してもらうための、大切な活動だと確信する次第です。

NIKKEI NO.5
Network
海外日系人協会だより
2010 JUN.

発行／(財)海外日系人協会 〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1 赤レンガ国際館2F
TEL: 045-211-1783 FAX: 045-211-1781
E-mail: info@jadesas.or.jp URL: www.jadesas.or.jp 編集発行人／白川 光徳



HEALTH AND LIFE INSURANCE
FOR FOREIGNERS LIVING IN JAPAN

～日本で安心して生活するためのセーフティネットとして～

日本初!外国人のための医療保険(100%保障)・生命保険

VIVAMED(医療+生命保障)
¥9500×6回払(一括払1年¥53,500)

VIVALIFE(生命保障)
¥3,800×6回払(一括払1年¥18,900)

(株)ビバビーダメディカルライフ <関東財務局長(少額短期保険)第51号>

www.vivavida.net

vivavida

検索

☎0120-656-684 / ☎046-265-6685